

2020年度 町田市観光まちづくり推進委員会 会議録

○開催日時 2021年2月17日（水）13時～15時

○場 所 オンライン開催（事務局：町田市庁舎9階 会議室9-2）

○出席者 出席委員： 西田司委員長、高橋清人副委員長、川原晋委員、
王莉莉委員、西村靖生委員、伊藤博之委員、三田村貴幸委員、
亀田文生委員

欠席委員： 和田圭司委員

傍聴者： なし

事務局： 経済観光部長
観光まちづくり課長
他事務局4名

○資 料

- 1 町田市観光まちづくり推進委員会設置要綱
- 2 町田市観光まちづくり推進委員会委員名簿
- 3 2020年度観光まちづくりリーディングプロジェクト事業体系
- 4 2020年度観光まちづくりリーディングプロジェクトの進捗状況について
- 5 新たなリーディングプロジェクト策定にあたって
- 6 町田市観光まちづくりリーディングプロジェクト

○次 第

開会

1 経済観光部長挨拶

2 町田市観光まちづくり推進委員会について

- (1) 委員会概要説明
- (2) 委員自己紹介

3 議題

1 委員長・副委員長の選任について

- ・ 事務局から委員長に西田委員、副委員長に高橋委員を提案。意義はなく、両名を選任した。

2 観光まちづくりリーディングプロジェクトの進捗状況について

- ・ 資料3及び4により、事務局から説明。

【委員からの主な質問・意見等】

- ・観光関連は世界的に苦勞している。今までと同じように大勢の人を集める等は難しい。ただその中で、四季彩の杜やグランベリーパークなど観光コンテンツが増えているので、マイクロツーリズムの観点で事業を進め、コロナが終息した時に、町田市の観光がもっとよくなっていればと思う。

薬師池西園で実施したグリーンスローモビリティについて、どういう方が試乗して、どういう意見があったか教えてほしい。

⇒子連れファミリーなど、比較的若い方達が多かった。林の中をオープンカーで走っているの、解放感があって非日常が味わえたとの事で好評だった。

- ・まちだ〇ごと大作戦は担い手の発掘にもうってつけの事業だと思っている。コロナ禍ではあるが、活動はどうなっているのか。

⇒観光まちづくり課では主に、地元の方で組織された「さくらサポーターズ」の尾根緑道での桜守活動を支援していることと、群馬の上毛かるたにならった「町田かるた」を制作し、小学生に町田のコアな歴史を知ってもらおうという活動を支援している。今年までの事業ではあるが、引き続き支援していきたい。

- ・まちだ〇ごと大作戦を通して、町田をレクリエーションの場として楽しんでもらうと良い。特に若い人たちには、それが今後の定住や、一度町田を出てしまってもUターンにつながる。それは観光を行う意味でもある。大きな可能性がある事業なので、もっと活用し、すそ野を広げられると良い。

- ・観光協会としてはイベント中止が相次いだ苦しい1年だった。オンラインツアーを実施し、参加者は市外の方だった。住んでいるところ以外の情報を知りたがっているのではないか。そのニーズをとらえることは、コロナ後に活かされるのではないかと思う。

- ・ポケモンマンホール等、よいPRをしていると感じたし、ロケの受け入れも頑張っている印象。四季彩の杜にも実際行ったがとても良かったので、コロナ後も楽しみである。

- ・国際交流センターでは、イベント等は全面的に休止した。コロナ後、外国人に対して何が出来るか考えているなかで、オンラインツアーは非常に興味がある。

- ・今後の人の流動は長距離ではなく、三市連携のようなマイクロツーリズムが活性化していくと思う。近隣を中心に、例えば薬師池でのアンケートを増やすなど、求められていることは何だろうかとアンテナを張り、成功例を分析していくと良いので

はないか。町田市と町田新産業創造センター等との共催で、「まちだ未来ビジネスアイデアコンテスト」を開催しており、そこで大賞を受賞したキャラクター「町田くん」を使って小田急町田駅で情報発信をしている。これとコラボしながら情報発信していても面白いのではないか。

- ・町内会では催し物をほとんど中止にしている状況である。町田市は色々事業展開しているところだと思うが、コロナが下火になったあと、それがどう結びつけるかが大事である。また、ロケ支援を行っているとの事だが、どのような内容だったか。⇒緊急事態宣言後に問い合わせが増えた。恐らく、都心から遠い場所にはロケにも中々行けないからではないか。ロケの内容としては、ドラマのワンシーンが中心だった。

3 新たなリーディングプロジェクトの策定について

- ・資料5により、事務局から説明。

【委員からの主な質問・意見等】

(コロナ禍における大型イベントのあり方)

- ・町内会としても、さくらまつりのような大型イベントは開催が悩ましいところである。やりたい人は多いが、どこまでの規模で開催していいのか判断難しい。屋外のイベントでは参考になるところが少ない。私としても、専門的な意見を伺いたい。⇒大型イベントは開催が難しい状況である。その中で観光庁が今進めているのは分散型旅行である。大勢が一堂に集まるのではなく、分散して楽しむもの。ちょうど今、京都で早朝参観のCMが流れているが、場所だけではなくて時間の分散させることも一つの手ではないか。桜で言えば、夜にライトアップして朝はウォーキングで楽しむなど。また、ターゲットを地元で絞るのも大事だと思う。限られたエリアなら対策もしやすいのでは。イベントの協議会に医療関係者を含めて、アドバイスをもらいながら進めているところもある。

- ・さくらまつりの出店を中止するのは反対である。どういう形態なら安全なのか専門家からアドバイスもらいながら、数店でも良いので出店してみて、チャレンジをすると次の祭りに生きてくる。観光庁が行っている誘客多角化事業から全国の活動事例が出てくるはずなので、この1年、各地でどういうチャレンジしてきたのか確認し、町田でも取り入れてチャレンジしていくと良い。その中にオンラインツアーもあるかもしれない。

(コロナ禍におけるPRのあり方)

- ・オンラインでの発信は今後大事になってくると思う。外国人向けのオンライン発信

をする場合は「やさしい日本語」を使うなど、外国人にも分かりやすい内容を意識してほしい。

- ・観光コンベンション協会では、少ないながらイベント等でのブース出展も行った。出来る手段を探るしかないが、西園のPR動画を映画館で放映したのは効果的だっただろう。秋に薬師池で紅葉のライトアップを行ったが、昨年より好評であった。近隣の方達の来訪であったと思うが、外出に飢えていると感じた。外国人向けのPRも大事だとは思いますが、まずは、近隣の方達に少しでも楽しんでもらうようPRしていくのがよいのではないか。
- ・今後遠方への旅行は減っていくので、実績のある、身近なところに絞ってPRが良いのではないか。その手段として、近隣映画館でのPRも良いし、先ほど述べた、毎日ツイッターで4コマ漫画が更新されている「町田くん」等を活用してみるなど、色んな可能性を探っていくのがよい。また、時間の分散という話があったが、相撲の升席のように、花見の場所を時間ごとに予約制にして、それをうまくプロモーションしていくと面白いのでは。小田急電鉄としても協力していきたい。
- ・他の委員の意見を伺ってPRについて改めて考えると、シティプロモーションの要素が大きいと感じた。豊かな生活を実現するために観光があると考え、ただ居住するだけの街ではなく、レクリエーションを含めて豊かなエリアとして街づくりを行うことが必要。それを市民が楽しんでいけば自ずと外から人が来るので、いかに市民が楽しめるレクリエーションを行えるかを地に足つけて考える良い時期なのではないか。ただ、ゆるキャラのようなイベントプロモーションは短期的で飽きられてしまう。街づくりの発想ではあるが、町田がこれまで培ってきた価値を手段として発揮することが行政の役割だと思う。例えば、今人気のある薬師池公園を、近隣のさびれてきた団地をもう一回花開かすために使うなど、ライフスタイルをプロモーションできても良いのではないか。大きな話になるが、ストックしてきたものを振り返って、他にない独自性を考えられたら良い。
- ・PRにオンラインとは言っても、オンラインで完結するだけではあまり意味が無い。ブース出展やツアーなど、今までやってきたことをオンラインに置き換えてみるという発想だと、色々なことが考えられるのではないか。地元にも実際行ってもらい、お金が落ちる仕組みを考える必要もある。
- ・将来を見据えた準備として観光が必要になる。定住人口、交流人口、関係人口をどう作り上げていくかだが、移動が制限される中で、コロナの中で普及したオンラインは有効な手立てである。PRとして新規観光客を獲得するのもいいが、今町田を離れている方達や、何かしらゆかりのある方達がオンラインで繋がれるのかもしれ

ない。地元の事は離れても気になっているもので、Uターン、Iターンにも繋がるのではないかと。シティセールスとしてフィルムコミッションの話もあったが、ミュージックコミッションを行っている舞鶴市は、地域のコンテンツを活用してミュージシャン達の音楽活動に繋げている。フィルムコミッションは、撮影当日は関係者以外立ち入り禁止で市民は楽しめないが、ミュージックコミッションは地元の人も参加するなど一緒に楽しむこともでき、地域の新たな魅力になる可能性がある。コロナ禍で、観光に対して、地元の方々の理解を得るためにも出来る範囲のことから着実に進め、可能性を広げていく必要がある。

- ・色んなことへのチャレンジも大事だが、あまり手を出し過ぎても何が軸なのか分からなくなってしまう。そこで、今の町田の強みである四季彩の杜を中心として、更にターゲットを例えばコスプレイヤーに絞るなど、腰を据えて事業展開していくのも良いと思う。
- ・四季彩の杜でやれることをみんなで考え、それをリーディングプロジェクトとして取り込んでいくと面白い。まちだ〇ごと大作戦のような進め方で、みんなで考えるのも新しい進め方である。
- ・町田だからできること。他でやっていない事。それは何かを考えて新たなリーディングプロジェクトの骨子を作ってもらえると良い。

4 その他

今後の観光まちづくり推進委員会のスケジュールについて

- ・事務局から説明。

以上